〔第三種郵便物認可〕

昭和七年六月二十二日　磐城新聞　〔水曜日〕　第三千四百五十九號　〔一〕

夕刊

六月二十一日發行

定價（郵稅拾錢）一ケ月金五拾錢
廣告料　一段一回金六拾錢　二段一回金一圓
社告料　一段一回金拾錢
發行人　佐藤一郎
印刷人　佐藤一郎
印刷所　磐城新聞社
東京出張所　東京市麻布區霞町十六番地
仲介者　日本廣告株式會社
東京支店　東京市麻布區霞町十六番地
電話番號　麻布五六四番

（日曜祭日翌日休刊）

途上漫筆（四）

小野生

人の運命程、怪しからぬ更に碩光師一家の慶殺事件ものは無い、余は曩日東堂が急起し、終に現住職になる山に遊むで愈々此感を深くつて、七萬餘圓の訴訟行爲した。東堂山の現住職粂原師の先々代田封碩丈師は、篤學であり、高德の聖者であつた、その上何時も參詣者の多い事と、歸依するものの夥しいので、至極經濟的にも惠まれて居つた、常に千や二千の金なれば立つてて要を達したと云ふ程であつたそうである。

然るに風波の立ちそうもない本山に好事魔の窺ふ隙を造つた、そは時價六七十萬圓に見積る事の出來る蒼然たる老杉の密林を有して居つたがその所有權が寺院有でなく小戸神と云ふ部落有林になつて居つた事にその端を發したのである。

部落民も此の密林を伐採すべしと主張するものと、否伐採派とに別れたが遂に伐採派の勝利となつて、嘗て斧鉞を入れた事のない、この密林に斧鉞を入れる事になつた、そこで師は伐採を停止すべき命令を其筋に願ふ事となつたので、初めて訴訟行爲の幕が開かれた

俗界ですら公事や訴訟は嫌ふ時代に師は餘儀ないとして立つたのであらうが、素より素人である所に、謂所事件屋なるものが、附き纏つて引くにも行くにも乘り引きならぬ沙汰となり、何時果てると云ふ見込みさいつかぬ事とまで進展した東堂山にしては、これすら尠なからざる散財であつたのである。

然るに、此の係爭中に師は入寂し、碩光師が襲いだこれが碩丈師には似もやらぬ暗師で、戰ひの戈を更に大ならしめた、そうして居る、中に本堂の火災となり、その夢で見るお日さまはとても美しい、金色をしてゐます。吹いて來る風はかうばしい匂ひをもつてゐますまつ青な海の波が、私の足もとへ、ザブリザブリ打ちかゝると云つてゐきしたから、

——では、ごきげんようどうぞ私のことを、忘れないでくださいね——。

いつか東が白んでゐました。大木は朝風にからだをふるはせて、その長い身のばなしの口を閉ぢました

と思ふ間もなく、亦やつて來るものだと云ふ、感を愈々深くした。

東堂山の如き如何なる場合でも沒落しようもないと嘯された、彼の福祿も十數年の間に見るかげもない、奈落の態に陷ちて仕舞つた事は、運命の能くする所で人事の如何ともする事出來ぬ所であらうが、さりとて餘りに果がないものであると思はれるのである。

（六月二十一日稿）

童話　赤い木の實

千葉省三

（下）

——四百年たちました。

——いつの間にか、私のまはりは、きれいに木や草が刈りとられて今見るやうな大きな町が出來上りましたそして私はたつたひとりこの町のまん中に取り殘されてゐたのです。

——私は、ときどき昔の夢を見ることがあります。

その夢で見るお日さまはとても美しい、金色をしてゐます。吹いて來る風はかうばしい匂ひをもつてゐますまつ青な海の波が、私の足もとへ、ザブリザブリ打ちかゝると云つてゐきしたから、

——では、ごきげんようどうぞ私のことを、忘れないでください——。

いつか東が白んでゐました。大木は朝風にからだをふるはせて、その長い身のばなしの口を閉ぢました

——ちよいと如何してくれるのさ、あれ程の固い約束をすつぽかしの梨の礫は酷

しながら、私のまはりと飛びめぐつてゐます。私は『あゝやつぱり、何も彼も昔のまゝだつたのだ』と、思つてすつかりうれしくなつてしまふのです。

——けれど、夢がさめてのかはりに灰色の屋根の波や車の、さうざうしい響なのかはりに見ると眼の前には、青い海渡り鳥の聲と思つたのは人

思ひの唄

川口政子

○君と行く初夏の山背の赤きへびの姿もなつかしきかな
○龍門寺彼の山寺の石段に背草繁り夏の風吹く
○君ときく太鼓の音よ三味の音よ平小唄よ汽車の汽笛よ
○かいどうの葉背く繁り公園の背葉もみゆる思出のまど
○愛林巢など書き給ひそな針に打ちつけなどしてたわむれし君
○カモシカの如く走るみ笑まし氣にながめて君はステツキなふる
○怒る度我れな捕へて胸におす齒形の跡の消えて悲しき
○彼の夜みし街のあかりよ君とみし街のあかりよ今も忘れず

拈華微笑

電話が二百四十兩に低落。魂消るなモトの四つ一になつた丈だ

◇

波立藥師に臨時停車場。渚傳ひのランデヴーなど乙りきだらう

◇

住ひを持ち歩く蝸牛のやうな贅六には珍らしい奇行の快老人

◇

田植の最盛季で平町郊外清新な農村點景

町では、新しく街道をつけるといふので、その道に當る大木を伐り倒すために大せいの木樵があつまつてゐました。

『この木もずいぶん古いものだな、なんでもおぢいさんが子供のころも、今とちつとも違はない大木だつたといふ話だよ』

『大きいばかりで役に立たないのさ、だから今まで誰にも伐られず殘つてゐたのさ』

『いつたい、なんといふ木なんだらう』

『大方、うどの大木とでも云ふ木だらう』

『ハハハハハハさうかも知れない』

そんな話の間にも鋸はずんずん、大木の幹に食ひこんで行きました。

とうとう大木はたくさんの綱に支へられながら重い響を立てゝ倒れました。

『やあ、こんなに實がついてら！』

子供たちは、爭つてその赤い實をもいで、口に入れました。

その時一羽の小鳥がサツト空から舞ひおりて、すばやく一粒の木の實をくはへあげましたが誰もそれには氣を止めるものはありませんでした。

小鳥は、南の方をさして遠く飛んで行きました。そして、海を見おろす小高い砂山の上にその實を埋めたのでした。

○

喜びの色に草木梅雨の晴　月斗

川霧のなかに小きい煙草の火そこでも人を待つてゐるのか　伊藤温子

社會の今日

6月22日　久二）△臺灣總督府廳廳（明治二八）△東京伯林間無電に成功する（昭和五）△太刀洗發の旅客機福岡縣冷水峠で墜落し操縦士、機關士、乘客一名慘死△住友爭議妥協成り籠城を解く△元佛國大統領アルマン、ファリエール氏死去△谷口で川崎知事歡迎會（同六）

譯談　お蘭陀お蝶

(61)

渡邊默禪作
布施長春畫

福松君、もてさるを得ない譯である、直ぐと勝手へ通されて茶が出る、甘い御馳走が出る、お松が接待役になつて河豚や横飛、ちやほやと歡迎する

『お柳さん、まだ眉物がありますせ』

と、お松が台所へ行つた際に福松は小さな聲をして

『是をね、内密でお前さんにあげて呉れつて、お嬢さまから言ひつかつて來ました、何だか知らないが大切な用向きですとさ』

と、懷中深くかくしてあつた手紙を取出した

『おやそう、御返辭がいるのぢやあ一寸待つてゝ下さい』

主人から揚屋への挨拶狀が出るまでは、猶時間があるので、お柳はその手紙を事をお吉自身の口から露骨に言はせたなら大變である……

こもりの玉江の蘆に、しの〻心の苦しさを憐れと思召し、何卒〳〵かねてのお約束を一刻も早くおはたし給はりたく、人目の關をもりのしめ繩かけて祈る、結ぶの神へくれ〴〵も念じ上げ奉り候、やがては春の逢瀬もがな色よき門松のお返しごとを、行く年の名殘りに是非おきかせ給はれ、かしく。

姉上様　妹お

勿論一生涯命に書いたのであらう、町家の娘としては分外に佳くこなした筆の跡だ、えん曲に情を訴へてあるから文字の上から平凡に聞えるけれど、是だけの

ラヂオ

……二十二日（水曜）……

仙臺　JOHK

△前六、〇〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象
△九、一〇　料理献立（掻き玉子汁）松本良雄
日用品値段
△一〇、三〇A　家庭講座（感情の陶冶）安倍季雄
△正午　A時報
△後〇、〇五A　掛合噺（山へ〳〵）丸一鋺味小仙外
△〇、四〇A　ニュース　氣象
△二、〇〇A　家庭大學講座（現代と基督教）塚本虎二
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇　ニュース
△六、〇〇B（子供の時間）童話劇（かけた植木鉢）漆原牧太郎作　大宮順一郎脚色　胡蝶座
△六、二〇A　コドモの新聞　村岡花子
△六、二五A　カレント、トピックス　ハロルド、パーマー
△六、三〇A　英語講座（初等科）岡倉由三郎
△七、〇〇A　ニュース　氣象　生繭相場
△七、三〇A　講演（社會と保險）法學博士森莊三郎
△八、〇〇A　管絃樂　日本放送交響樂團（新交響樂團練習所より中繼）
△八、四五　三曲（まゝの川）荒木梅旭
△九、〇〇　常磐津（三保松富士晨明）
△九、三〇A　時報　ニュース

廣告

技術本位
いさ下賜依御てし心安
理修計時
平才槌小路
高橋時計店

無効返金（日本服藥會）
説明治療書進呈
別府市鶴水園
岩里天然堂製藥所
本店
奏効迅速性
急性
慢性
黴毒用
婦人病用
赤痢
腸カタル
海外特許
特約店

石城郡平町古鍛冶町　阿康藥店
同三丁目三八　渡邊イトキ藥局
福島市荒町　澁谷商店
同置賜町三八　土屋藥舗
同五日町二一　中村印刷所
若松市七日町二　松下藥店
同榮町一丁目　西澤商店
同花小路　黑川商店
南會津郡田島町　熊良藥店
伊達郡保原町　庄堂藥店
同深川町　中村順藥店
相馬郡中村町大町　丸山藥店
同鹿島町八八　木村商店藥品部
西白河郡白河大工町新地通
岩瀬郡須賀川町宮崎町　白井金銀細工店
同須賀川驛通　高松藥舗
救生藥堂

涼味！輕快!!
麥稈
ネクタイとワイシャツ
●常に新らしき品、定評ある、廉價そして豐富●
中野洋品店
平二丁目（電話五三番）
代理店
三井生命保險株式會社
第一徵兵保險株式會社
●第一徵兵有給社員招聘●
詳細は御來店下さい

肺、肋膜、心臟全治の早道
マムシ藥粉々好評
◎マムシ藥發賣以來服用者は約貳百人食慾の出る事、体力の增す事、セキの止る事、熱の下る事、動悸の靜る事、等一服毎に着々奏効し驚嘆と感謝の聲愈々高くなりました、迷はず疑はず論より證據一度御体驗下さい。
◎精力增進不可思議なる『マムシ膽』、强烈なる胃痙攣も此の膽を二個一時に服用する時は二三分にて治癒する程の驚く可き卓効があります、マムシ粉と併用すれば一層特効があります。
◇健康体の人も常にマムシ藥を服用すれば心身爽快体力增進す（但し健康体の獨身者は遠慮あられ度し）
効能（心臟、胃腸、性力欠乏、食慾不進、神經衰弱、冷性婦人病、腎臟、体力の衰てる人）
試説明書藥無代進呈（東京市淺草田島町九川上蛇類研究所）
平町五丁目二二（金光堂時計店裏）
代理販賣店　井内

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科　專門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院
大和田郡司
（自炊の便あり）

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店　水戸線下館驛前（電話五五番）
茨城縣土浦町田宿（電話六五三八二四）
支店所在地
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
◇安全、便利、經濟のスタデリナ石油コンロ
◇完全燃燒のネンショストーブ
營業種目
石油揮發油輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油、胡麻、種水、種油類、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ……
（型錄進呈）

外科　內科外科　醫學士
產科・婦人科　院長　木村寅次郎
平新川町十九　松永憲一
外科一般
整形外科
木村病院
電話一六四番

安く書てきいよい
ウエル萬年筆
ライトインキ
代理店
魁文堂
電話三一三番
平町字搔槌小路
"WELL"
ウエル萬年筆
金壹圓以上數十二種
の一唯邦本金四十正はンペ金のルエウ
商府京東）作製て法方金合の許特賣專
工獎勵館驗試部驗試館驗濟）目錄上呈

診察
夜間
婦人病　皮膚病　淋病
專門
內科　十二指腸虫病
專門
內科　外科
松村胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）

セダン揃ひて！
貸切專門の！
昭和タクシーへ
三四三番

永井女史獨唱會

明廿二日高女講堂で

天性の美聲を發揮

磐城高女では明廿二日午後一時から講堂に於て永井郁子女史の獨唱會を開くが會費一般十錢女學生五錢であると

——女史は音樂學校聲樂科出身東京府立高女の教員から各國の原語をそのまゝ歌ふを遺憾としてステージに立つた邦語獨唱家として餘りにも有名であるが今回は主に日本人作家民謡及歐米各國の和譯國歌に地方では容易に接し得ぬ天性の美聲を發揮すると

關係町村長連署で夏井の治水陳情

農相と營林局へ

總工費百九萬二千圓を要する夏井川上流の改修工事は目下順調に進行して居るが更に宇佐見川前村長の主唱で沿線

白井小川、草野平窪菊地赤井、伏見平、佐藤、神谷、阿部夏井、吉田大野渡邊大浦各町村長及長瀬小川江、阿部愛谷江各管理者

が連署の上農林大臣と東京營林局に左の陳情書を提出し實現運動を起す事となつた

夏井川は本縣田村郡内大瀧根山を水源として本郡内各町村を貫流し三坂小玉好間諸川を合し夏井村無を期する事となり今二十一日から吏員を督勵して調捻出する方針である

流路を合し三十七里餘に及ぶ本縣樞要河川にして之が流域には林野五萬五千餘町歩耕地約一萬餘町歩を包轄し治水公益上最も重要なる河川に有之候然るに右上流沿岸地帶の基岩は脆弱なる花崗片麻岩にして土壌亦輕鬆にして崩壞し易き地質にして大正十一年大豪雨に當り大崩壞を來し爾來累年其の面積を增加し一朝旱天に際會せば水量の激減を來し下流耕作地の收穫を不能ならしめ利用發電力を減退し又豪雨に當りては土砂流失甚しく大洪水を現出し耕作地の大半を埋設したる例尠からず加之水利設備の砂壞し交通路を欠壞せしむる等其筋コンクリート造り府内大ホールの壁畫は有名な和田三造畫伯の力作十萬圓を要したと云ふ

施行中に有之候、然れども山林災害の甚大なる區域の大部分は國有林野にして之が復舊工事を施行するに非ざれば到底前記災害を根治し難き狀況に有之候條關係地方民の窮狀を御賢察の上速に御精査相成國土保安上水利公益上砂防工事御施行相成樣致度茲に關係町村及水利組合の協議により謹で及陳情候也

電柱使用料金値上

平町窮餘の財源捻出

財政難の平町では幾分の緩査を開始した外住宅前電柱の電柱料金從來の一ケ年三十五錢乃至五十錢を他町村との均衡二圓以内に値上げ三等地六十錢の使用料を徴收し電柱四百餘本の料金と併せて八、九百圓の財源を捻出する方針である

町役場が肝煎りで北海道移民募集

有望な昨年渡航の十餘名

平町役場では縣内在住者にして農業に經驗を有する戸主又は成年の男女にして勞働に耐え得る者たる事及移住旅費他詳細は町役場に就き承合の外企業資金を携帶し永すべく尚は昨年渡航の十餘住土着の意志强固なる者の條件にて目下北海道移民を募集中であるが締切りは第一回八月三十一日、第二回十一月三十日で移住先其兒所を開催中で成績頗る良好であると

平局の電話架設費

二百四十圓に低落

來月十一日受付開始

平局に於ける本年度電話架設申請受付は來月十一日よりと三十日迄取扱ふが平局の架設費は從來の四百圓から急轉して二百四十圓に低落した。尚は設備費は二回に拂込む便宜あるが設備費のつたと

『平で拾つた話』記事輻湊休載

平驛始發の臨時波立藥師に停る

四倉、久の濱間渚傳ひの便

仙臺鐵道局では海水浴客の海濱散策の便をはかる適當な個所に列車を臨時途中停車を行ひしめようといふ方針で選定中であつたが先づその効果を試みるため例年東京鐵道局によつて平驛から出される久之濱驛行きの海水浴臨時旅客列車を四ッ倉、久之濱兩驛間上野基點二二一キロ五五〇米附近に途中停車を行ひ附近三丁波立藥師一帶の奇岩怪礁遊覽久之濱、四ッ倉兩海水浴場を行ふことにした

繭の鐵道輸送減

近距離は悉く自動車利用

平驛で昨二十日迄に取り扱つた繭輸送高は十四日七噸（一車貨切）十七日四百十三瓩、十九日二千三百九十九瓩、二十日十六噸（二車貨切）と云ふ少量であるがこれは近年著しく增加しつつある輸送は一口もなく皆郡山其他遠距離のものばかりで加貫數黃四百二十貫、最高二圓四十七錢、最低二圓三十一錢、買馴二圓四十一錢、掛目二十

四倉繭市況

二十日

△總貫數白二千百五十七後三時から平第二校に役員低二圓三十錢、買馴二圓四十五錢、掛目二十△總貫、最高二圓六十錢、最低を開催すると

郡女教員會　二十二日午

平驛托兒所好績　平窪小學校教員は昨年同樣去る十六日より二十五日迄村内兒童四百餘名を本校、中鹽分教場、上平觀音寺の三ヶ所に收容し井上校長夫妻を始め職員總出で農繁季中の托

平驛始發の臨時波立藥師に停る

四倉、久の濱間渚傳ひの便

仙臺鐵道局では海水浴客の海濱散策の便をはかる適當な個所に列車を臨時途中停車を行ひしめようといふ方針で選定中であつたが先づその効果を試みるため例年東京鐵道局によつて平驛から出される久之濱驛行きの海水浴臨時旅客列車を四ッ倉、久之濱兩驛間上野基點二二一キロ五五〇米附近に途中停車を行ひ附近三丁波立藥師一帶の奇岩怪礁遊覽久之濱、四ッ倉兩海水浴場を行ふことにした

郡聯絡小學校職業紹介打合　午前九時から平町四丁目マルトモホールに開催第二回職業指導デーに就て協議

玩具組合發會

平、四倉の玩具小賣人三十五人より成る磐城玩具商組合發會式は此程二丁目佐野屋旅館で擧行左の三氏を幹部に推擧した後値段の協定を決議したが今後は植田、勿來其他各方面の會員を極力勸誘するとの組合長橋本德次、副組合長伊藤重次郎、會計小野仙之助

途上の奉仕を續け全國一週の老翁

◇浮浪人などの面倒を見乍ら夜は携行の移轉小屋に寢る◇

渡邊太田部地内國道筋を二週間の巡回を終へ去る十日午後移動小屋を引き乍ら乃木將軍の思想善導に關する印刷物を各戸に配布し會善導の爲めに奉じて終るのだと稱してゐたと

平商庭球遠征　二十六日午後十時から双葉中學に開催される相馬双葉三中等學校大會に出席するが選手次の如し

田植

最盛季に入る

平町の郊外近く

潑溂たる農村點景

平町附近の各農村では田植の最盛期に入り潑溂たる田園風景を漂はしてゐるが田植の手間賃は男女辨當持八錢乃至一圓で二圓七、八十錢にもなつた五、六年前に比較すれば三つ一位ではあるが終日汗と力の結晶である男勞働者の賃銀が六、七十錢の今日此處ばかりは男女同等の賃銀でこの方面に於ける出稼人の多數居住する鎌田、立町の勞働者界方面は夫婦共稼の增收に依り幾分生活難が緩和され苦境の中にも微笑みを浮べて居る

水の魅惑

——五歳の幼女溺死——

夏井村大字菅波字太郎作一(三)は去月十一日無免許で振りかざして俺の夫婦約束した女を何處へやつたと騒ぎ廻つてゐる處を兵庫署員に御用

△邪推から兇刃　神戸市湊西區日暮通り五丁目太物職紺野甚治郎(四二)は二百圓

1（本田、塚本、齋藤、安島、鈴木(森)柚木、小林、鈴木 2（木田、小齊岩佐）

△出生

八幡小路三一石川郡大森田村大字池之久保一五一石井久治四男光治(五三)を尋ね口論の末矢庭に短刀をもつてこうを滅多突き切り仲裁の長女きみ(三六)の左乳下數ヶ所にきりつけ姫路署員に逮捕された、原因は藤本の内縁の妻上杉で家出一宮市に愛の巣を營んでゐた處この始末を知つたの兩親が各々生木を割いて連れ戻つたのを悲觀した兩人は又々家出して岐阜市に至り死に場所を探してゐる處を岐阜署員に保護された

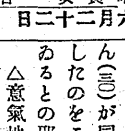
△姻

東白川郡常豊村東河内炭釜二三一吉田正(三三)一丁目四三永澤八重子(二六)

△死

諸判定應需

東京市本郷區湯島四丁目五番地高島齋總本部　神鍼館



舊五月十九日　水曜甲寅大安成宿參

六月二十二日

△一白の人　親和を旨として引立を失はざる樣せば安全▲二黑の人氣運虛にして大事に逢し舊業は更に繁榮す▲三碧の人　心逸まぬ事も案外に効果を得速樂助上み合せ▲四綠の人　船の大海を無事に渡る如し雄圖大に成就す▲五黃の人思案に暮るれば好機を失ふ計劃に向ひ進め▲六白の人　内憂外患次々に起らんとす萬事を控ゆべし▲七赤の人　焦慮狼狽は更に不利を重ねべし又病厄注意▲八白の人迷信を去り信ずる所を行へば喜び家に滿つ▲九紫の人　貪慾に過ぐれば却て窮する事ありじ重せよ

滿洲行

藤田中尉（信州第九）

◇京城の一日

◇全鮮を統治する最高機關總督府を見學した草正新興の意氣に燃えて企劃した統治機關の府として其建築物もすばらしい壯麗優美なものに驚く工費六百三十四萬圓十ヶ年の歳月を要したと云ふ五階建花崗岩張鐵骨コンクリート造り府内大殿等と共に李王宮殿の一部である、この慶會樓とは君臣の宴會場で十五尺の赤松の大柱石四十八本を以つて大崩壞し易き地質にして崩壞し易き地質にして土壌亦輕鬆にして崩壞し易き地質にして大正十一年大豪雨に當り大崩壞を來し爾來累年其の面積を增加し一朝旱天に際會せば水量の激減を來し下流耕作地の收穫を不能ならしめ利用發電力を減退し又豪雨に當りては土砂流失甚しく大洪水を現出し耕作地の大半を埋設したる例尠からず加之水利設備の砂壞し交通路を欠壞せしむる等其筋コンクリート造り府内大ホールの壁畫は有名な和田三造畫伯の力作十萬圓を要したと云ふ

◇豪のものだ　人口四十萬を包擁する朝鮮の首都京城に於てはきき過ぐる位の建物でありこれでは本國の大藏省で泣くのも無理はあるまい、昌德宮を見た李王家の庭園、昌德苑にも遊んだ、然し王のあらせられぬ昨今は一入の寂寥を感じさせられてならなかつた、晝食は宇垣總督の接待で慶會樓と云ふ所で行はれた

◇景福宮勤政　殿、思政殿等は有名な李王宮殿の一部である、この慶會樓とは君臣の宴會場で十五尺の赤松の大柱石四十八本を以つて大崩壞し易き地質にして崩壞し易き地質にして土壌亦輕鬆にして崩壞し易き地質にして大正十一年大豪雨に當り大崩壞を來し爾來累年其の面積を增加し一朝旱天に際會せば水量の激減を來し下流耕作地の收穫を不能ならしめ利用發電力を減退し又豪雨に當りては土砂流失甚しく大洪水を現出し耕作地の大半を埋設したる例尠からず加之水利設備の砂壞し交通路を欠壞せしむる等其筋コンクリート造り府内大ホールの壁畫は有名な和田三造畫伯の力作十萬圓を要したと云ふ五階建花崗岩張鐵骨コンクリート造り府内大殿等と共に李王宮殿の一部である、この慶會樓とは君臣の宴會場で十五尺の赤松の大柱石四十八本を以つて大崩壞し易き地質にして崩壞し易き地質にして土壌亦輕鬆にして崩壞し易き地質にして大正十一年大豪雨に當り大崩壞を來し爾來累年其の面積を增加し一朝旱天に際會せば水量の激減を來し下流耕作地の收穫を不能ならしめ利用發電力を減退し又豪雨に當りては土砂流失甚しく大洪水を現出し耕作地の大半を埋設したる例尠からず加之水利設備の砂壞し交通路を欠壞せしむる等其筋コンクリート造り府内大ホールの壁畫は有名な和田三造畫伯の力作十萬圓を要したと云ふ

◇京城に於てはきき過ぐる位の建物でありこれでは本國の大藏省で泣くのも無理はあるまい、昌德宮を見た李王家の庭園、昌德苑にも遊んだ、然し王のあらせられぬ昨今は一入の寂寥を感じさせられてならなかつた、晝食は宇垣總督の接待で慶會樓と云ふ所で行はれた

◇景福宮勤政　殿、思政殿等と共に李王宮殿の一部である、この慶會樓とは君臣の宴會場で十五尺の赤松の大柱石四十八本を以つて大崩壞し易き地質にして崩壞し易き地質にして土壌亦輕鬆にして崩壞し易き地質にして大正十一年大豪雨に當り大崩壞を來し爾來累年其の面積を增加し一朝旱天に際會せば水量の激減を來し下流耕作地の收穫を不能ならしめ利用發電力を減退し又豪雨に當りては土砂流失甚しく大洪水を現出し耕作地の大半を埋設したる例尠からず加之水利設備の砂壞し交通路を欠壞せしむる等其筋コンクリート造り府内大ホールの壁畫は有名な和田三造畫伯の力作十萬圓を要したと云ふ

◇干基を此處に拓いて城は大陸文明の淵源より京城は大陸文明の淵源に於ける出稼人の多數居住する鎌田、立町の勞働者界方面は夫婦共稼の增收に依り幾分生活難が緩和され苦境の中にも微笑みを浮べて居る

◇夕食府尹の　招待は公會堂に催された、餘興の妓人を入るることが出來ると云ふ大建物である、元氣な總督は御挨拶に代つて現下の我國の狀勢と在鄕軍人の決意とを促され朝鮮統治の大要を述べられた、同胞の君幸を祈つて止まない

◇京城を一巡　した私は今京城を去るに臨んで其概觀を書き結文としやう・漢城の歷史は古い歳華流れて茲に五百年時に漢陽と呼ばれ漢城又は李都とも稱せられ李成桂が天地自然の形勝を得る者たる事及移住旅費の外企業資金を携帶し永すべく尚は昨年渡航の十餘住土着の意志强固なる者の條件にて目下北海道移民を募集中であるが締切りは第一回八月三十一日、第二

△姦婦姦夫斬り　岐阜縣

△姦婦姦夫並に飯場の爲府とし又は經綸の根據地となし